

令和6年度 事業報告書 岡崎いきいき市民活動センター



【指定管理者：特定非営利活動法人 音の風】



1. 管理運営の状況

1 施設運営業務

(1) 職員体制

センター長 1 名、職員 11 名（常勤 1 名、非常勤 11 名）

【人材育成の取組】

- ・OJT 研修
- ・オンライン視聴研修「中間支援を考えるシンポジウム」ひょうごコミュニティ財団
- ・オンライン視聴研修「地域社会から選ばれる存在となるために」大阪市市民活動総合ポータルサイト

(2) 貸館等

ア 利用件数

(表 1)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	前年度比
R5	130	128	126	136	128	143	133	124	121	116	130	149	1,564	91.84%
R6	141	134	150	139	135	161	165	148	130	134	126	160	1,723	110.17%

(年間) 1,723 件 (前年度比 110.17%)

(表 2) 月別時間

R6年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
午前	121	109	133	126	120	138	139	126	114	107	101	134	1,468
午後	155	173	185	170	155	206	187	189	170	183	165	205	2,143
夜間	54	33	40	40	38	45	53	49	31	32	33	55	503
R6合計	330	315	358	336	313	389	379	364	315	322	299	394	4,114
R5合計	316	320	319	313	330	387	342	292	290	276	318	371	3,874
前年度比	104.43%	98.44%	112.23%	107.35%	94.85%	100.52%	110.82%	124.66%	108.62%	116.67%	94.03%	106.20%	106.20%

イ 利用状況

① 年間の利用状況について

件数で見ると前年から 110.17%の増加（表 1）、時間は 106.20%増加している。（表 2）9月、10月、11月、3月に利用時間が上がっている要因として、10月の青空おんがく祭、12月の市民活動総合センターのみんなの文化祭、3月のサークル見本市などの事業の前に、発表に向けて練習を多くされていることがあげられる。また、コーラスやシニア音楽グループなども、コンクールや発表会の前は、いつもの練習に加えて時間を延長して利用があった。

（表 3）は 3 月を例として、利用団体別に時間で分析したものである。定期利用団体が 35 件、237 時間。不定期でよく利用がある団体・個人が 25 件、85 時間。これらの団体で 81.8%の利用があった。

(表 3) 利用団体別時間分析(3月) 単位：時間

定期利用	237	60.2%
不定期利用（多め）	85	21.6%
年に数回程度、または1回	34	8.6%
共有外：センター事業等	38	9.6%
合計利用時間	394	

1 回また年に数回程度の利用が 11 件 34 時間。センターで事業、調律や抽選会などで使った時間が 38 時間 9.6%である。

令和 6 年は、新規利用登録が 46 件あった。このうち毎月の定期的な利用につながったのが 3 件、また複数回の利用が 8 件であった。それ以外は 1 回のみ利用である。

② 課題や改善

○課題

- ・会議室に比べ和室の利用が低い。昨年と比較すると、会議室2の利用が増えていない。

	会議室1	会議室2	和室
R5年度	1486時間	1312時間	768時間
R6年度	1634時間	1310時間	922時間

会議室1：1634時間 会議室2：1310時間 和室：922時間 合計：3866時間（R6 有料利用のみ）

R6年度	午前	午後	夜間
・夜の時間帯の利用が低い。	1402時間	1991時間	473時間

ウ 利用促進に向けた取組【センターで取り組んだこと】

貸館利用促進企画として、夜間の利用を狙い『ふらっとアトリエ』に取り組んだが、思うように利用者がなかった。そこで新たに、個人練習を呼び掛けるチラシを作成し、サークル活動前に自宅での練習不足を補うため、また活動終了後にもう少し納得いくまで練習したいという方の利用につながった。次年度も和室や夜間の利用を呼び掛ける工夫を行いたい。

昨年から続いている町内老人会の健康麻雀は、参加者も多く定期的で開催されている。このように新規利用者が定期利用につながるような働きかけを行いたい。



(3) 情報発信等

ア 取組実績【SNS等広報媒体により、情報発信に積極的に取り組んだ事例】

- ・HP、Facebook、X（旧ツイッター）と3つのSNSを情報発信の特性に応じて分けている。
- ・HPはこれから行う事業の告知と、終了した事業を報告している。いくつかの提案事業では専用ページを作り、内容の告知や出演するサークルの紹介などを行った。
また新規利用者の登録がスムーズに進むように登録用紙や利用規約をダウンロードして記入できるようにしている。新規利用について電話で問い合わせがあった際は、来館しなくても登録できるように利便性を高めている。
- ・Facebookでは事業の報告、Xは日々のニュースや、他のセンターや近隣施設のポスト、そして助成金情報などのリポストなどを日々気軽におこなっている。Xはほぼ1日に1回程度、今までのポストは3,879件（4/5現在）当センターのフォロワーも徐々に増加し4/5の時点で840人となった。
- ・地域自治推進室を通じた区民新聞への広報もこまめに広報依頼をしているほか、京都新聞のお知らせ欄「まちかど」にも依頼している。

・昨年度は、京都新聞に数回センターの取り組みが取り上げられた。レコードを聴く会 10 周年を記念して発行した冊子から、センターフェンスでのいちご栽培、またドラムサークル、シニアの地域活動と記者の方を見かけるたびに、センターの事業をアピールすることで新聞に取り上げてもらうことができた。

- ・「文化と地域デザイン学会」共同代表の同志社大学名誉教授の新川達郎先生に学会年報に当センターを記載したいとインタビューを受けた。またその内容は「文化×地域×デザインが社会を元気にする」という本として、2025 年 3 月に出版された
- ・地元町内会対象に「岡崎いきセン便り」を作成し回覧している。



イ 取組の効果

事業が新聞に多く掲載された。レコードを聴く会 10 周年冊子では多くの市民からの問合せがあり、レコードを聴く会への来会者が昨年比 125%と大幅に増え、かける会に参入された方もおられた。またセンターの X での取り上げで、自ら SNS を発信していない市民活動の会に問い合わせがあり活動を応援することができた。

(4) 管理運営

京都市との協定書及び仕様書に基づき、適切に管理運営を行っている。

防火管理者の講習は 2 人のスタッフが受けている。

業者による、建築設備、消防設備の保守点検を受けた。年に 2 回のワックスがけ等の清掃もしている。植栽等は高木に関しては剪定業者に整えてもらっている。他、普段の清掃、保守管理、草花の植栽はスタッフにより実施している。

(5) その他

【施設運営の質を高めるための取組】

- ・京都市の定期アンケートのほか独自アンケート、事業ごとにアンケートを実施し利用者の意見を聞いている。詳細は後述「4 施設の利用満足度」。
- ・各建物にご意見ボックスを設置し、窓口でも利用者への積極的な声掛けで良好なコミュニケーションをとっている。また、10 月を相談月間として大々的にサークルの悩みなどのヒアリングに努めた。

【将来に向かって地域と共に進化するための取組】

- ・地元密着型公共施設として地域とのパートナーシップを強化し、小回りを利かせた活動で地域団体との協働をすすめている。地元施設からの依頼で、学校や利用者をコーディネートしている。
- ・左京区役所ふれあいまつり出演や、区役所イベントのチラシ配架を行っている。また区のまちづくり助成金事業等の審査員紹介なども行った。

2. 市民活動支援・活性化事業 *岡崎いきいき市民活動センターは、すべて市民活動支援活性化事業

【事業名】市民活動自立自走事業 相談・育成事業

1 事業の概要

	業務内容	日時	場所	人数	協力団体等
①	ロームスクエアライブ『岡崎パークステージ』出演グループコーディネート	10/5	ローム・スクエア（ロームシアター京都中庭）	233名、観客多数	ロームシアター京都
②	ドラムサークルグループサポート	R6/7～R7/3	センター、錦林小学校体育館	37名、その他イベントごとに来場者	錦林小学校、
③	岡崎いきセン利用者交流会『サークル見本市』	3/15	ローム・スクエア（ロームシアター京都中庭）	出演者約70名、観客約30名	
④	センター利用団体の活動サポート、地域へのコーディネート ア) チラシ作成サポート イ) 左京区ふれあい祭 ウ) 保育園コーディネート エ) 市縁堂団体募金箱設置	ア) 9月 イ) 11/4 ウ) 1/30 エ) 11, 12月	イ) 左京区役所 ウ) あおき保育園	ア) 2団体 イ) 出演者8名＋観客多数 ウ) 出演者5名＋観客20名 ウ) 2団体	イ) 左京区役所 ウ) あおき保育園 エ) 京都市市民活動総合センター、エイブルパフォーマンス柄
⑤	センター利用者相談月間	10月	センター	2団体	
予算：855,000円 決算：864,966円					

2 事業内容

- ① ロームスクエアライブ『岡崎パークステージ』地域団体出演グループコーディネート
ドラムサークルグループ、あおい苑（障がい者施設）、岡崎幼稚園、錦林児童館、文教中学高等学校ダンス部、岡崎中学校吹奏楽部
- ② ドラムサークルグループサポート
養成講座終了後、昨年できたサークルグループ「Kyo 響 Beat」のメンバーが増えた。活動先へのコーディネートとサークル運営に関してミーティングにかかわった。
- ③ 岡崎いきセン利用者交流会『サークル見本市』
様々なセンター利用グループが発表を行い、準備や司会なども相互に行い交流をはかった。
- ④ センター利用団体の活動サポート、地域へのコーディネート
チラシアドバイス、コーラスグループの発表会イベントにアドバイスを行う。左京区民ふれあい祭りに、センター利用団体こどもコーラス Comodo を出演、オープニングイベントで会場を盛り上げた。てをつなぐ青木保育園に、センター利用団体錦林アカペラコーラスをコーディネート。お楽しみ音楽会で手遊び歌や、子ども向けの曲を歌い盛り上げた。市縁堂 2024 団体のエイブルパフォーマンス集団柄（ガラ）の募金箱を設置し募金協力を行った。
- ⑤ センター利用者相談月間
サークル活動についての悩みや運営の相談を個別に行いスムーズな運営につなげた。（卓球ビギナービギナー、ふれあいネットアンサンブル）

3 準備段階での工夫

- ① ロームスクエアライブでは、主催者ロームシアター京都の担当者が変わったので、当センター主導で出演者等の調整等を行った。
- ② ドラムサークルグループの活動場所として、小学校で行われる地域の夏祭りを想定し、春から小学校と自治連合会と連絡を密に行い調整した。また、騒音についての配慮として、学校周辺の家に「夏祭りの音量に関するお詫び」のチラシをポスティングした。
- ③ サークル見本市では、センター側のスタッフ不在でもイベントが進むように、当日の進行の流れや紹介文の準備など綿密に行った。
- ④ 保育園のコンサートの依頼に際し、対象となる幼児やそのイベントの内容を細かに聞き取り曲選定など相談にのった。

4 事業実施による効果・達成度

(1) 当初の事業効果、目標等

当センターの利用者、グループの活動の活性化をはかる。市民活動グループの自立自走を目指す。またグループの活動活性化を促進することで、貸館利用の拡大も狙う。

(2) 事業実施による目標の達成度

- ・利用者や地域団体を市民活動につなげることができた。
- ・発表の場を求めている、地域団体、サークル活動を活性化することができた。
- ・子どもむけの曲を練習しているコーラスグループに、得意分野を活かしたボランティア活動を提案することができた。
- ・サークル見本市で交流し、新規加入者があり活動が活性化した。
- ・一般市民にセンターの取組みを周知することができた。

○アンケート結果より

① ロームスクエアライブより：地域イベントへの協力について

(ア) 子どもたちのモチベーションアップに繋がっています。このような舞台での発表を目標に練習をしているクラブもありますので、ぜひ次回も参加できればうれしいです。保護者の方はもちろん、地域の方々にも見ていただける機会となっています。出演後はいつもいろいろな方からお声がけをいただき、地域の方々との繋がりも生まれる素敵なイベントだなと感じております。(錦林児童館)

(イ) 地域でのイベント協力、参加は何よりも大事だと思っております。地域の方々の応援・サポートあってこそ吹奏楽活動だと以前から強く感じております。今後も可能な限り協力、参加したいと思っております。(岡崎中学校)

5 今後の抱負

- ・利用者相談月間だけでなく、普段の対応や会話から相談や悩みがあれば、全スタッフで情報を共有しサポートを続けていきたい。
- ・利用者のサークル活動を、児童施設や老人福祉施設、障がい者施設にボランティアに出かける市民活動化を進めていきたい。
- ・新規サークルの立ち上げや利用団体の活動の活性化による貸館利用時間の増加を目指す。

市民活動自立自走事業 相談・育成事業



①岡崎パークステージ 岡崎中学校吹奏楽部



②ドラムサークルサポート 小学校夏祭りコーディネーター



③サークル見本市 参加者で準備飾りつけ



③サークル見本市 閉会式記念撮影 お客さんも出演者も



④活動サポート 左京区ふれあい祭 子どもコーラス



④活動サポート 保育園 アカペラグループコーディネーター



④チラシ作成サポート コーラス発表会チラシ作成のアドバイス



⑤サークル利用者相談月間 卓球団体

【事業名】 市民活動自立自走事業 イベント企画支援「青空おんがく会」実施

1 事業の概要

- 1 開催日時：R6/10/26日（土）準備 10-13時 本番 13-16時 片付け 16-17時
- 2 開催場所：センター 音の庭（二条通に面した小庭）
- 3 参加人数：企画者：ホシノカケラ 3名、出演者：6グループ、観客、約 50名
- 4 予算： 105,000円 / 決算： 104,165円

2 事業内容

センター利用団体に、センター二条通に面した庭での音楽イベント企画を募集し、コーラスグループ「ホシノカケラ」が応募。企画立案から当日の運営にいたるまでの支援を行った。

【役割】

- ・企画者：イベントの出演者の出演依頼、企画立案、チラシ作成、広報、準備、設営、司会進行、音響等、片付け。
- ・センター：場所、市内各所へのチラシ配架依頼、SNS等での広報。音響。写真・動画撮影、他運営補助全般。

3 準備段階での工夫

- ・企画者にとっては初めてのイベント企画だったので、余裕を持った日程設定、出演者の選定やチラシ作成へのアドバイス、当日までの準備など順を追って説明し相談にのった。

4 事業実施による効果・達成度

(1) 当初の事業効果、目標等

サークル活動から市民活動へ一歩踏み出すために、自らイベントを開催する企画力の養成

(2) 事業実施による目標の達成度

- ・出演者の立場から、企画運営も担いイベント全体の流れを理解することができたことで、過去のイベントも含め企画運営側への目線に立つことができた。
- ・企画運営側の苦労を経験したうえで、終了後には次回開催への意気込みが感じられた。本事業の開催により、音楽サークルが、市民交流イベントの企画運営という市民活動に向けた第一歩としての効果が得られた。

○ アンケート結果

- ・企画者：Q. 企画段階で、苦労したこと難しかったこと工夫したこと。
 - A. 何から手をつけて良いか手探りだったので不安だったが、センターのサポートが受けられたので心強かった
- ・出演者：あまり人前に出るのが得意ではないので緊張しましたが、良い経験になりました。客席が大き過ぎず仲間が見守ってくれていて、初心者の私にはちょうど良いイベントに思えました。

5 今後の抱負

イベント終了後、企画者出演者よりまた機会があればこのようなイベントをしたいという相談もあった。今後もレベルに合わせて引き続きサポートを続けていきたい。

市民活動自立自走事業 イベント企画支援「あおぞら音楽会」



椅子、飾りつけ他、セッティングも出演者と一緒に。



午前中に行われたリハーサル



司会は企画者「ホシノカケラ」メンバーで



客席も満席



周辺から音の庭を見守る観客



今回が初舞台だった男性ギターユニット



企画者、ホシノカケラの演奏



最後は客席にも歌詞を配り全員で合唱

【事業名】 市民活動自立自走事業 まちあるき&手作りマップ

① アートライター講座 ② まちあるきギャラリー巡りツアー

1 事業の概要

- 1 開催日時：①11/16（土）13：00～16：00
②1回目 11/22（金）12：45～16：30、2回目 11/30（土）12：45～16：30
- 2 開催場所：①会議室2とロームシアター京都中庭
②和室と岡崎近辺のギャラリー4か所
- 3 参加人数：①29人 ②11/22：17人 11/30：15人
- 4 協力団体等：京都市美術館、芦屋画廊、ギャラリー恵風、京都写真美術館ギャラリー等岡崎
周辺ギャラリー8か所
講師：①藤井容子氏 ②11/22 美術作家：多田幸浩氏、11/30 京セラ美術館副館長 小林中氏
- 5 予算：467,000円 決算：462,545円

2 事業内容

【実施目的】①まちの魅力を発信するための文章をつくるコツを学ぶ。

②岡崎のまち歩きを楽しみながら、地域の魅力の発見、市民目線での発信を目指す。

【実施内容】

①講師より新聞記事を例に「足・目・心」の視点で見るライティングの講義を受けた。ロームスクエアにて、京都市美術館別館やロームシアター京都の建物を題材に表現するWS、センターにて動画を視聴しての感想を伝えるWSを、講義で学んだ視点で伝え合うペアワークを行う
②11/22は美術作家のヒロ氏と、11/30は京都市京セラ美術館副館長の小林氏を講師に迎え、岡崎エリアを中心としたギャラリーと美術館をそれぞれ各4か所巡った。まち歩きを楽しむとともに、各ギャラリーを担当グループに分かれて取材。センターに帰ってから、記事にまとめた。その記事を元に、アートのまちである岡崎の魅力を伝えるギャラリーマップを作成する。

3 準備段階での工夫

3年前からギャラリー巡りをはじめ、事前に講師と共に歩き高齢者に無理のない行程になるよう考えている。今回はライター講座を先に企画して、ギャラリー情報を言語化する力を高め、ライター講座参加メンバーが積極的にグループ内で発言をまとめ記事にした。

4 事業実施による効果・達成度

①ライターの視点の解説により、ワークショップで記事をまとめる際にも「考え方、表現の仕方がまとまった文章が書ける。」「深く考えることができるようになった。」と参加者からも良かった点が多数あげられている。今回の講座受講者から、ギャラリー巡りツアーに11名参加があり、講座で得た知識で魅力を発信することができた。

②アート施設の多い岡崎エリアのギャラリーや美術館を巡る事により、地域の魅力を再発見することができた。またグループ同士で一丸となり記事作成や取材をすることで参加者同士の交流や、地域ギャラリーとの交流が生まれやすい場作りができた。

5 今後の抱負

当講座終了後に参加者がギャラリー巡りを通して発見した地域の魅力をSNS等で発信できるように工夫をしたい。

市民活動自立自走事業 まちあるき手作りマップ

①アートライター講座 ②ギャラリー巡リツアー

①アートライター講座 11/16



座学にて表現のコツを聴く参加者



ロームシアター京都にて建物を表現するペアワーク

②ギャラリー巡リツアー 11/22、11/30



講師のヒロ氏のギャラリー巡りのルールの説明



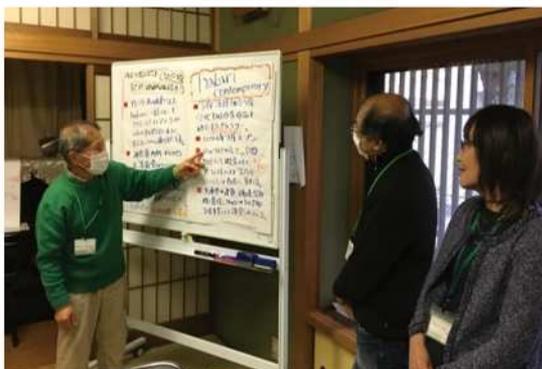
京セラ美術館の作品展示について話を聞く参加者



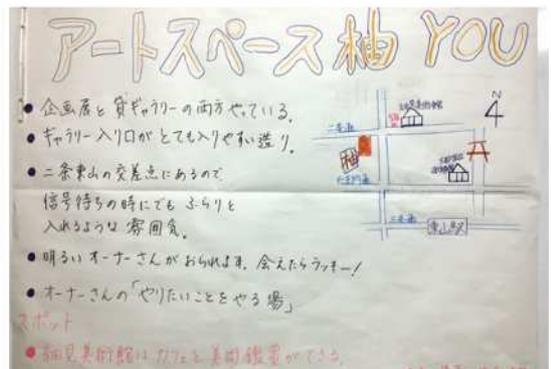
ギャラリーオーナーに取材する参加者



グループ同士で記事をまとめる参加者



まとめた記事をグループごとに発表



当記事を用いて後日センターで
ギャラリーマップを作成する

【事業名】文化芸術交流連携事業 社会包摂とアート 福祉ドラムファシリテータ養成講座

1 事業の概要

- 1 開催日時：令和 R6/6/15（土）、6/29（土）、7/13（土）、7/14（日） 各日 13-17 時
- 2 開催場所：6/15：錦林小学校、他はセンター
- 3 参加人数：講座参加者 29 名
- 4 協力団体等：株式会社ビートオブサクセス、錦林小学校 PTA
- 5 予算：875,000 円 / 決算：883,639 円

2 事業内容

【実施内容】

- ・打楽器を通じた福祉活動や企業研修を行っているビートオブサクセスより講師を招き、講義と実技を学んだ。
- ・初日は小学校でのイベントを企画し、小学生の親子参加者に混じって、講座受講者はドラムサークルを体験した。
- ・昨年の受講生が自主的に活動しているドラムサークルクラブを紹介し、今後地域イベント出演のコーディネートを行った。

3 準備段階での工夫

ドラムサークルの魅力を伝えるために、初回に小学校でのイベントを企画した。また、昨年の受講生が活動しているドラムサークルグループとうまく連携できるように去年の企画者もオブザーバーという形で参加できるようにした。

4 事業実施による効果・達成度

(1) 当初の事業効果、目標等

文化芸術を通して地域福祉に貢献する人材の育成を行い、地域への派遣を行うことを目的とする。

(2) 事業実施による目標の達成度

- ・講座終了後、錦林小学校で開催された岡崎自治連合会の夏祭りに講師と参加して経験を積むことができた。また、受講者のみでロームスクエアライブでドラムサークルのファシリテーターを実践し経験を積むことができた。
- ・センターで和室で開催された岡崎学区社会福祉協議会のいどばたサロン、事業「サークル見本市」などでドラムサークルを行い経験を積んでいる。

○アンケート 自由記述より一部抜粋

たった、4 回の交流とは思えないほどあたたかくて、変に力を入れずに過ごせる素敵な場になりました。私はもともと非言語コミュニケーションに興味があり、今回人類共通の一番シンプルなビートをサークルのみで共有するという体験ができて、自分の中にまた新しい感覚が芽生えたのを感じられました。この先どこに行ってもいつまでもこのビートと感情があれば生きていけるなあと思えたことはとても大きな財産です。導いてくださりありがとうございました。仲間の皆さんとも出会えてよかった。また叩きたいです。

5 今後の抱負

ドラムサークルグループに参加する人が社会課題に気が付き、ボランティアとして積極的に地域福祉に貢献するメンバーを増やし、安定的なドラムサークルクラブの活動が動き出すまで伴走しながら支援を継続していきたい。

文化芸術交流連携事業 社会包摂とアート 福祉ドラムファシリテーター養成講座



6/15:1回目:錦林小学校でDC体験。受講者もはじめてドラムに触れる人も多い



受講者は親子と混じって体験。講師のファシリテーションで1時間ほどのDCは終了



1回目:小学校の後、センターに帰って講義

6/29:2回目:真ん中に立ってファシリテータの体験中



7/13:3回目:手作り楽器、段ボール、鍋など身近なものでの楽器体験

7/14:4回目:4回の講義を無遅刻無欠席の受講者は、当センター認定ファシリテーターに任命。地域活動に取組まれる。

【事業名】文化芸術交流連携事業 レコードを聴く会 2024

1 事業の概要

- 1 開催日時：①レコードを聴く会 4/27、5/25、6/22、7/27、8/24、9/21、9/28、10/26、11/23、12/21、R7年 1/25、2/22、3/8、3/22（全日 14：00～15：30） ②レコードをかける会 12/28（14：00～15：30） ③お出かけレコードを聴く会 7/31（13時半～15時） R7年 3/27（10時～11時半）
- 2 開催場所：①②センター和室 ③東山老人福祉センター
- 3 参加人数：①4/27：21名、5/25：15名、6/22：21名、7/27：30名、8/24：26名、9/21：35名、9/28：35名、10/26：31名、11/23：23名、12/21：29名、R7年 1/25：27名、2/22：22名、3/8：32名、3/22：20名（計 367名） ②12/28：20名（計 20名） ③7/31：12名、3/27：12名（計 24名）（①②③合計 411名）
- 4 協力団体等：岡崎レコードを聴く会サークル、東山老人福祉センター
- 5 予算：411,000円 決算：410,029円

2 事業内容

- ・毎月1回、レコードを聴く会の開催、年1回の企画者交流会の開催、お出かけレコードを聴く会の開催、新規企画者の育成、市民企画者の自立・自走支援

3 準備段階での工夫

- ・それぞれの企画者に見合ったサポートをするために企画者ごとにスキルを分析した。
- ・受け身側だった来場者が能動的に動き出せるように「レコードをかける会」を企画した。
- ・レコードを聴く会の企画者が固定化しないように新しい企画者を志願する人を来場者の中から探した。
- ・集客が思わしくないと推測できる会の前には京都新聞まちかどの掲載などを利用した。

4 事業実施による効果・達成度

（1）当初の事業効果、目標等

- ・企画者の自立自走へ向けて。

（2）事業実施による目標の達成度

- ・それぞれの企画者のスキルを分析し、企画者ごとに見合ったサポートをし、自立に向けてさらに一歩前進できた。
- ・企画者の中でもリーダー的な存在の企画者が企画者交流会を取りまとめ企画者同士で作り上げる会ができた。
- ・企画者の中の数名が自身で企画運営し、自主企画の会へと踏み出す事が出来た。
- ・昨年度は330人だった来場者が411人となり、本年度は125%増となった。

5 今後の抱負

- ・リーダー的な存在の企画者をまとめ役にして企画者同士で作り上げる会を作り、自主運営を学べる場を作っていきたい。
- ・お出かけレコードを聴く会を今後も開催し、企画者が市民活動に気づきを持てる環境を作っていきたい。
- ・受け身側だった参加者が能動的に動き出せる「レコードをかける会」を来年度も計画していきたい。

文化芸術交流連携事業 レコードを聴く会2024



念入りに企画をし広報にも力を入れた甲斐あり、大盛況な会となった



自発的に会場の片付けのサポートをする来場者



センターの利用団体を交えウクレレとオカリナの生演奏



レコード曲を歌い一体感が生まれた会となった



人気の招聘講師の会



受け身の来場者が能動的に会に参加するレコードをかける会



各月の会のメンバーが集まり、企画者同士がサポートし合い会を運営する企画者交流会



東山老人福祉センターで開催した、お出かけレコードを聴く会

【事業名】多世代交流事業 岡崎ワールドミュージックフェスタ

1 事業の概要

- 1 開催日時：①岡崎ワールドミュージックフェスタ mini 9/29(日) (13:00~16:30)
②ワールドミュージックを聴く会・ワークショップ：5/18、7/20、9/16、9/23、10/12、12/14、1/11、3/20 (全日 14:00~15:30) ③打合せ (5/31、②の終了後、他日は SNS でのメッセージなど)
- 2 開催場所：①ロームシアター京都ロームスクエア内 ②岡崎いきいき市民活動センター和室
③京都文教大学・宇治キャンパス、岡崎いきいき市民活動センター
- 3 参加人数：①約 100 人 ②各回約 5~20 人 ③各回約 3~5 人
- 4 協力団体等：京都国際交流会館、ロームシアター京都
- 5 予算：435,000 円 決算：434,812 円

2 事業内容

- ・岡崎近隣施設（京都市国際交流会館、ロームシアター京都）、地域団体、市民との連携から生まれたまちなぎわい創りによる音楽フェスの側面的支援。
- ・地域団体の小学生からセンター高齢利用者の多世代交流の中、一丸となり音楽フェスを作る。
- ・ワールドミュージックを聴く会・ワークショップ：ミニコンサートやワールドミュージックの勉強会などを、2 か月に 1 回程度で開催。ワークショップでは手作り三味線や民族楽器演奏体験などを行う。
- ・自立自走に向けた体制づくり。

3 準備段階での工夫

- ・会の終了後には必ずミーティングを行い、また頻繁に SNS でのやり取りを行い、実行委員の現状を把握しておく。
- ・参加者を増やすため、「レコードを聴く会」事業の企画者や参加者に声掛けをした。また京都新聞のまちかどの掲載を利用した。

4 事業実施による効果・達成度

(3) 当初の事業効果、目標等

- ・小規模なイベントでありながらも継続していけるようサポートを行う。
- ・多世代で交流できる音楽フェスやワークショップを行う。

(4) 事業実施による目標の達成度

- ・岡崎近隣施設と地域団体、市民との連携の中イベントを行い、多世代が交流する場づくりができた。
- ・実行委員長が不在となった岡崎ワールドミュージックフェスタの存続のために実行委員の 1 人がワールドミュージックを聴く会の中心として名乗り出た事で継続が見込める事になった。
- ・岡崎ワールドミュージックフェスタ mini で当事業に興味を持った参加者がワールドミュージックを聴く会にも足を運ぶようになり交流の輪が広がった。

5 今後の抱負

- ・さらに多世代交流が生まれるワールドミュージックを聴く会を目指していきたい。

多世代交流事業 岡崎ワールドミュージックフェスタ



京都市国際交流会館連携企画。海外留学生達が講演した



珍しい楽器を試奏しながら市民と交流した



子供と子育て世代との交流ができた楽器作りWS



岡崎ワールドミュージックフェスタminiローム・スクエアにて



アイヌの音楽と気孔のWSを体験する参加者



ピアノと箏、パーカッションの生演奏を楽しむ参加者



三味線の音の聴き比べを参加者と共に行った



レコードを聴く企画者と当実行委員と連携イベントを開催

【事業名】 地域連携事業 岡崎わいわい文化祭

1 事業の概要

- 1 開催日時：①文化祭：R7年2月1日(土)13:10～16:00
②会場スタッフ会議：R7年1月9日(木) ③出演者会議：R7年1月15日(水)
④実行委員スタッフ会議：R7年1月22日(水)
- 2 開催場所：①京都市国際交流会館メインホール、ホワイエ ②京都市国際交流会館
③センター会議室1 ④岡崎集会所
- 3 参加人数：わいわい文化祭入場者数：約350名（出演者：岡崎中学吹奏楽部、京都文教中高ダンス部、錦林児童館、岡崎女性会、太極拳「朝練清清」、あおい苑など13団体約250名）
②会場スタッフ会議：実行委員長、会場スタッフ2名
③出演者会議：各出演団体代表12名
④実行委員スタッフ会議：地域の方々14名
- 4 協力団体等：岡崎中学校、京都文教中高、京都市国際交流会館
- 5 予算：345,000円 / 決算：344,620円

2 事業内容

- ・岡崎地域の福祉施設、教育機関等が連携し、歌や踊りの発表を行った。
- ・地域の魅力を伝える写真展、地域の小学生の絵画、中学生の書道、また岡崎地域に滞在制作する海外作家の現代アートの発表、地域の特産品の販売等催し物をホワイエで同時開催。

3 準備段階での工夫

- ・実行委員長のPCスキルアップを目指し、今まで手書きだった書類作りをデジタル化できるようにサポートした。
- ・ホワイエで同時開催の作品展の出展者が増えるよう地域のギャラリーに声掛けをした。

4 事業実施による効果・達成度

(1) 当初の事業効果、目標等

- ・地域実行委員の文化祭自主運営を目指す。
- ・実行委員が文化祭を自主運営していくための資金調達。

(2) 事業実施による目標の達成度

- ・企画から当日の運営まで地域住民が力を合わせて開催し、地域活動の活性化に向けた自立的な活動ができた。
- ・実行委員のPCスキルの向上により、昨年よりもさらに広報物の作成ができるようになった。
- ・寄付金箱を会場の数か所に設置し、実行委員の積極的な呼びかけの甲斐あり、地域の方々から来年度に向けての運営資金を調達する事ができた
- ・アンケートから次回も楽しみにするという声をたくさんもらった。10年以上も開催した甲斐あり、地域の皆が楽しみにしている地域に根付いた文化祭になってきている。

5 今後の抱負

- ・文化祭の継続のため運営資金調達に向けて寄付金を促す呼びかけと自主運営を目指したサポートをしていきたい。

地域連携事業 わいわい文化祭



客席は満席の中 地域の中学校吹奏楽部の演奏からスタート



地域の方々の発表を参加者も一緒になって楽しんだ



ホワイエでは地域の方々の作品展示が行われた



トークの上手い実行委員が司会を担当し終始イベントが盛り上がった



実行委員スタッフで手分けして会場の設営を行った



終演後は実行委員で集まり和やかに反省会を行った



出演者会議では出演団体とタイムテーブルを念入りに確認し合う



会場スタッフと実行委員でステージの動きの打合せを行った

【事業名】 地域連携事業 ギャラリートークイベント

1 事業の概要

- 1 開催日時：R6/5/4（土）13時30分～15時30分
- 2 開催場所：センター会議室2
- 3 参加人数：38名
- 4 協力団体：アートスペース柚 You
- 5 予算：120,000円 / 決算：119,600円

2 事業内容

- ・前年度のセンター主催の事業で交流が生まれた地域ギャラリーと、さらに親交を深めるために連携し、絵本裏話トークショーのイベントを行う。
- ・トークイベント内容に左京南部地域の話題が含まれている事もあり、市民に当地域近辺の魅力の再発見を目指す。
- ・センターはアートの分野で活動する市民との繋がりが薄かったこともあり、本イベントをきっかけとして利用者増を目指す。

3 準備段階での工夫

- ・極力ギャラリーに出向き対面で話をする機会を増やし、親交を深めつつ企画を進めた。

4 事業実施による効果・達成度

(2) 当初の事業効果、目標等

- ・地域ギャラリーと親交を深めるために連携し、トークイベントを行う。またアートの分野で活動する市民との繋がりを作り、利用者増を目指す。

(2) 事業実施による目標の達成度

- ・広報物の準備から当日の運営まで地域ギャラリーの連携のもとイベントを開催する事ができ、地域ギャラリーとの親交を深めることができた。
- ・市民と地域のギャラリーを繋げるきっかけづくりができた。
- ・来場者が絵本裏話トークショーを参考にしたトークイベントを開催するため会議室を利用する事になった。

5 今後の抱負

- ・主催者と入念な打ち合わせのもと仕上げたチラシがきっかけとなり「ギャラリートークイベント」に参加した来場者がセンターを利用する事に繋がった。今後はさらに利用者増に繋がるような仕組みも取り入れていきたいと思う。

地域連携事業 ギャラリートークイベント



予想を上回る参加者が集まり会場は満員となった。



話題豊富な登壇者のトークを興味深く聞く参加者。



受付に手慣れた登壇者の身内の方がサポートに入った。



イベント開催日前に当日の動きと、使用する機材の確認を登壇者とともにいった。



地域ギャラリーにて打合せを行った。



地域ギャラリーの絵本作品展

同時開催！
絵本「潜入！天才科学者の実験室」原画展
日程：2024年5月3日(金・祝)～5月12日(日)
場所：アトスペース柚 YOU (099-0916-5333)

「絵も書くのに
えらい時間かかる
ころやなきー」
「センセの話
まよめんのが大変やわ！」
「描くもんの事
ぜんぜん調べな
あかんやん！」

絵本「潜入！天才科学者の実験室」
原画展・開催記念懇談

科学者 × 作家 × 漫画家 =
絵本裏話トークSHOW

ヒミツの話バラします！子ども大人もおもしろい！

日時：2024年5月4日(土・祝) PM1:30～3:30
場所：京都市岡崎いさき市民活動センター・会議室2
詳細：参加無料・事前申込み制(先着30名) 075-761-4484
共催：ギャラリーアトスペース柚 YOU

立お申込み・お問合せ先
京都市岡崎いさき市民活動センター (認定NPO法人 市民活動推進センター)
〒606-8342 京都市北区岡崎藤屋町2番地 電話 075-761-4484 E-mail okazaki@netsb.com
アクセス：地下鉄「岡崎駅」2番出口徒歩2分(徒歩)を徒歩10分(徒歩)を徒歩10分

京都市 京都市北区岡崎藤屋町2番地 電話 075-761-4484
京都市北区岡崎藤屋町2番地 電話 075-761-4484
京都市北区岡崎藤屋町2番地 電話 075-761-4484

入念な打ち合わせのもと仕上がったチラシ。

3. 利用料金の収入実績及び管理運営に係る経費の収支決算

1 利用料金の収入実績

令和6年度実績： 2,578,840円（前年度比108.6% 令和5年度：2,374,840円）

{	内訳 会議室等：2,349,000円（前年度2,161,800円）
	附属設備：229,840円（前年度213,040円） ※自主事業分を除く

その他収入 提案事業（参加費） 87,000円

2 管理運営に係る経費の収支決算

別紙収支決算書のとおり

4. 施設の利用者満足度の把握

1 利用者満足度の把握状況

(1) 全センター共通窓口サービス調査

【実施時期】令和6年11月実施 【調査項目】窓口サービス

(2) センター独自アンケート

- ア) センター独自にアンケートを実施(令和5年11月実施)
- イ) ご意見箱を会議室1と分室ロビーに設置 (R5年11月より)
- ウ) 事業実施時にアンケートを実施

2 利用者満足度把握の結果

(1) 全センター共通窓口サービス

	案内表示は分かりやすかったですか	あいさつやお声がけはきちんとしていましたか	身だしなみは業務にふさわしいものでしたか	表情や態度は感じが良かったですか	言葉づかいや説明は、親切で丁寧でしたか	説明は的確で分かりやすかったですか	整理、整頓は行き届いていましたか
たいへん満足	23.77%	45.9%	40.2%	44.3%	45.1%	41.8%	36.9%
満足	72.95%	54.1%	59.0%	55.7%	54.9%	57.4%	60.7%
不満	3.28%	0.0%	0.8%	0.0%	0.0%	0.8%	1.6%
たいへん不満	0.00%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.8%
無回答	0.00%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

「たいへん満足」「満足」が多い。今後も利用者対応について丁寧に行った。

(2) センター独自アンケート 【令和6年11月実施】

ア) センター独自アンケート(125枚) 利用者の地域や年代について

① 利用者の地域について

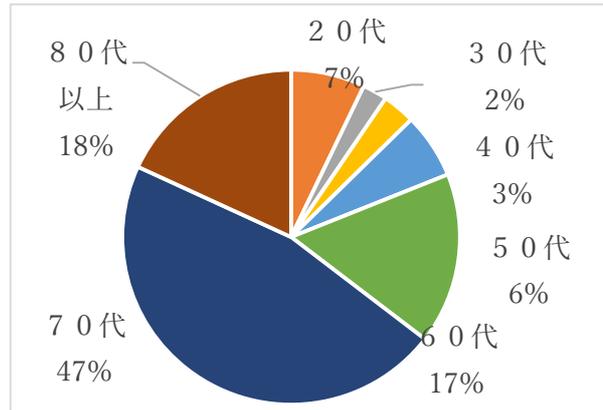
左京区	北区	上京区	中京区	東山区	山科区	下京区	南区
45人	7人	6人	7人	4人	8人	8人	6人
右京区	西京区	伏見区	京都府下	大阪	兵庫	滋賀	
7人	8人	7人	3人	7人	1人	1人	

左京区の利用者が全体の36%で多い。市内全域だけでなく他府県からの利用もあった。

②利用者の年代

10代以下	20代	30代	40代
0人	9人	3人	4人
50代	60代	70代	80代以上
8人	21人	59人	23人

70代の47%を筆頭に60～80代の利用者が82%を占めている。当センターの利用者は、シニアが中心である。



② 『身近な社会課題について』、自由記述形式で書いてもらった。

戦争・平和	物価高	安全・犯罪 闇バイト	高齢化	居場所 孤立	いきセンの 存続	オーバーツーリズム、 バス混雑
7	4	4	3	3	3	3
人間関係の 社会性低下	老後	環境	高齢化			
2	2	2	3			

その他、見えない障害、芸術におけるポリコレ、マイナ保険、地域創生、年齢による転職など様々な意見が1人ずつあった。

イ)事業実施時にアンケートを実施
事業報告書に添付している。

3 意見等への主な対応状況

(1) 全センター共通窓口サービス調査

自由記述欄に多かった要望として「蛍光灯のちらつき」が多かった。蛍光灯を交換しても、ちらつきが続く灯具自身の器具の交換等が考えられるので、修理を検討していきたい。

(2) センター独自アンケート

年に1回、100名以上の利用者を対象とした独自アンケートや、常時置いているご意見箱で、スタッフへの直接要望しにくいことや、気づかれた点、気になることなど様々な意見を集めている。

今回独自アンケートの自由記述欄には「いきセンの存続」を気にしている意見が3件あり存続を求められている。

5. 指定管理者による管理運営業務の自己評価

1 取り組んだ事業等の総括の記載

「市民活動自立自走事業」だけでなく、すべての事業において参加者による自主運営や自立自走に向けての支援に取り組んでいる。また、サークル活動でもメンバー募集チラシのアドバイスや、活動先の紹介など活動の発展に尽力している。

事業「地域文化祭」は、今までセンター側で作成していた、出演者へのお知らせや出演者の記

入表を、担当者が作成できるようにワードの操作方法などアドバイスして作成できるようになり、自主的な運営の強化につなげた。

また、「レコードを聴く会」では「レコードをかける会」の新規企画者の参加が、今までの市民企画者に良い刺激となり、さらに盛り上がりを見せている。市民企画者は、自身で広報をするスキルをつけてもらうためにチラシは自作してもらい、当日運営も一定のルールが確立し市民企画者が各自ができるようになった。さらにポータブル機材を持って老人福祉施設等にでかける「おでかけレコードを聴く会」は2回あり、ワールドミュージックを聴く会などに企画者が関わり、市民活動への積極的な関与が見られた。

自立自走に向けた支援は、個人やグループの状況に合わせてきめ細やかに行う必要がある。センターでは長期に渡る利用者や関係者とのコミュニケーションから臨機に対応ができ、自立自走支援の成果が現れている。

2 今後、解決すべき課題等

【貸館利用者増】

チラシやインターネットを活用し、市民に向け広く周知に努め、新規利用者を増やす努力を続けてきた。夜の貸館利用増を狙った「レンタルアトリエ」の利用が思うようになかったため、個人練習アップのチラシを作成し、今までの利用者の中より活動を増やしてもらうよう努力する。

快適な環境を整え利用しやすい部屋に努めているが、さらに利用者アンケートやヒアリングなどを通して利用者増につなげていきたい。

3 次年度に向けた対応

次年度も、引き続き事業や支援の内容の充実を図り、さらなるグループの自立自走に取り組む。

施設運営に関しては常勤スタッフからアルバイトスタッフのスキルアップを目指し、研修などを充実させたい。

6. その他施設の管理運営に関する重要又は異例な事項

施設の管理運営（事業の実施を含む）に当たって、何か重要又は異例な事項はありませんでした。